

最後の競技となった事業所対抗リレーは、この日が一番盛り上がり、会場全体の温度が上がるなか、利用者と職員ともに精一杯走りました。

閉会式では、利用者の皆さんがドキドキしながら待っている中、いよいよ成績発表！ 紅組と白組、共に接戦でしたが、勝利したのは紅組でした。また、パフォーマンス合戦の部門ではワークスいけじまが理事長賞を獲得されました。

結果の発表を受けて、勝ってうれしい気持ち、負けてしまって悔しい気持ちと様々な気持ちがあったと思いますが、参加された皆さんが楽しかったと思えて頂けたら嬉しいです。

競技にも応援にも一生懸命に取り組まれていた利用者の皆さんを見て、来年はさらに良いものにしたいと思いました。



**全国手をつなぐ育成会連合会 2017年度
定時総会が開かれました**

理事長 小泉 いと子

6月30日(金)にTKP有楽町にて、全国手をつなぐ育成会連合会の2017年度定時総会が開催されました。

今回の議案としては、2016年度の事業報告・決算、2017年度の事業計画・予算でしたが、これら以外に全国連合会の抱えている課題に対し、今後の展望について各ブロックで意見集約された結果の提示がありました。

事業報告では、やはり7月26日に発生した、津久井やまゆり園の事件がもたらした社会的反響や、今後の育成会の果たすべき役割についてお話がありました。特に社会に向けて、個人ではメッセージが発しにくいのが、全国連合会が中心となって会員一人ひとりが「手をつなぐ」ことにより、メッセージを発信する事ができるのではないかという提言に共感しました。

また、昨年度は各地区育成会の活性化に向けた「地方育成会活性化助成事業」が始まり、各地区での実施報告がありました。この事業の目的は、新しい会員の

獲得に向けて、啓発研修を各地区育成会(市区町村の育成会)で実施しようというものです。昨年度は大阪市内での実施は見送りましたが、各地区での実施報告から、今後、大阪市育成会として市民啓発研修を実施検討する際の参考となりました。

続いて事業計画では、平成30年4月に控えた法施行3年後の制度見直しと報酬改定がポイントに挙げられていました。また、全国育成会の課題にもなっていますが、高齢化の問題、介護保険との関係性、親なき後の住まいや金銭管理等の支援については、踏み込んでいきたいとの事でした。

最後に全国連合会の抱えている課題に対して、各ブロックから提出された意見集約結果についての説明がありました。

今回、全国連合会が集約した各ブロックからの意見について、各種課題の回答に温度差があったようです。従って、まずは全国の皆さんに各ブロックでの考え方を知ってもらい、課題への対応策については、それぞれ置かれている状況も異なることから、全国連合会が各ブロックをまわって意見交換をして合意形成を図っていきたくと説明がありました。

今回の会議で示された各ブロックからの意見については、一度全てを読み返してみても、全国連合会としては大きな課題ではあります。全国連合会の構成員として、大阪市育成会でも少しずつ出来ることから課題解決に向けて取り組んでいこうと思いました。

笑顔の「ごちそうさま!」を聞きたくて

東成育成園 副主任 茶谷 和美

東成育成園は、昭和62年に開所して以来、直営方式による給食提供を行っています。

旬の食材を使用した野菜たっぷりの献立を施設の管理栄養士が考え、食材の発注から調理まで全て東成育成園の厨房スタッフと協力して行っています。利用者の嗜好を反映し、栄養バランスも考慮した給食を提供できるのは直営方式ならではの事です。仕入れは、ほぼ地元の商店街で行っており、地域に密着した給食提供を長い間続けています。

東成の給食の特徴は、何といたっても野菜も肉も魚も豆腐も新鮮なこと。その日に使う食材を、朝早くに納品して頂き、野菜の泥を落として洗うところから調理が始まります。冷凍の食材を使うことは殆どないのが、給食会社に委託する給食とは大きく異なる点です。厨房スタッフは現在6名で近くにお住いの方が多く、子育てを終えられたお母さんばかりです。家庭料理の